

インフルエンザとは

●**典型的な症状** 突然の高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛などで、のどの痛み、咳、鼻水なども見られます。普通の風邪に比べて全身症状が強く、特に、高齢の方や慢性疾患患者は、気管支炎や肺炎などを合併し、重症化することがあります。

●**感染予防のために** 流行前に予防接種を受けることが有効です。この場合、抵抗力がつくまでに2週間ほどかかり、接種してから効果が持続するのが5ヶ月とされていますので、なるべく10月下旬から12月中旬までに接種を受けることをお勧めします。

また、予防のためには、人込みへの外出は避け、日頃から十分な栄養や休息をとることが大切です。室内では加湿器を使って空気の乾燥を防ぎ、外出時のマスクや帰宅時のうがい・手洗いは、普通の風邪予防と併せてお勧めします。

接種を受けることができない人

① 接種当日、明らかに発熱のある人

一般的に、体温が37.5℃を超える場合をいいます。

② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人

急性の病気で薬を飲む必要のある人は、その後の病気の変化がわからなくなる可能性もあるので、その日は接種を見合わせることを原則です。

③ インフルエンザ予防接種に含まれる成分によって、アナフィラキシーを起こしたことがある人

「アナフィラキシー」とは、接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急に腫れる、全身にひどいじんましんが出る、吐き気、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状が続き、血圧が下がっていく激しい全身反応です。

④ 予防接種で2日以内に発熱のみられた者又は全身性発疹などのアレルギーを疑う症状を呈したことがある者。

⑤ 過去に免疫不全の診断がなされている者。

⑥ その他、医師が接種不相当と判断した場合

接種を受ける前に、医師とよく相談しなくてはならない人

① 心臓血管系、腎疾患、肝臓疾患、血液疾患及び発達障害などの基礎疾患を有することが明らかな者。

② 過去にけいれんの既往のある者。

③ 気管支喘息のある患者。

④ インフルエンザ予防接種の成分または、鶏卵、鶏肉、その他由来のものに対して、アレルギーがあるとされたことがある者。

接種後の副反応について

接種後、発赤、腫脹、疼痛などの局所反応や、全身症状として発熱、悪寒、頭痛、全身倦怠感等があらわれる場合があります。また、極めてまれですが、重篤な健康被害の発生も報告されています。このため、接種する前に医師による健康状態の十分なチェックを受けることが必要です。